

## 令和2年度 金沢大学附属中学校 自己評価表

<b>学 校 目 標</b> 自由闊達な気風の中で、広い視野と豊かな人間性を持ち、将来、社会的使命を果たす生徒を育成する。 (1) 自ら考え学び創造する生徒 (2) お互いに認め合い、助け合う生徒 (3) 心身ともにたくましい生徒		
<b>本校の経営方針</b> (1) 金沢大学の方針、規則に沿った学校運営を行う。 (2) 学校教育学類、教職実践研究科や他の附属学校園との連携を密にして、附属学校としての任務の遂行にあたる。 (3) 生徒や教職員の自主性を尊重しながら、教育目標や目指す生徒像の具現化を図る。 (4) 金沢大学附属中学校のよき伝統を受け継ぎ、より良い校風の樹立と継承をめざす。		
評価項目	目 標	具 体 的 取 組
教 務	1. 総合的な学習の時間の系統性を重視し、より円滑に実施する。	・ E S D の視点で構築した総合的な学習の時間の内容を精選し、系統立てて実施する。
	2. 年間行事のより効率的な運用をはかり、行事の精選を行う。	・ 学校行事の年間計画をより効率よく運用する。
	3. 新学習指導要領に対応した教育課程を円滑に実施する。	・ 新学習指導要領に対応した教育課程とその学習にともなう評価を円滑に実施する。
生徒指導	たくましく生きるための社会性の基礎を養う。	・ あらゆる場面で挨拶ができるよう指導する。
		・ 時間を守り、行動することができるよう指導する。
		・ 心豊かで思いやりのある言動ができるように指導する。
教育実習	1. 実習に係る諸活動を滞りなく行う。実習を通して学生に教育的愛情と教師の自覚・責任の意識、実践的な指導力を育成する。 2. 大学院教職実践研究科の中学校におけるさらなる連携体制を整え、院生の指導力の向上ができるようにする。	・ 教科の実習のみならず、学級経営や生徒指導など、生徒理解を深める様々な実習が行える計画、運営を行う。
		・ 大学との連絡を密にとり、実習に係る取り組みの理解、共有を図る。 教員と院生と相互に授業検討を行うなど、連携を意識した学校実習を計画し、運営する。
研 究	1. Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力を明らかにする。 2. STEAM 教育を実践できるプロジェクトを開発する。 3. 開発したプロジェクトを実践した際の教育効果を検証する。 4. 研究成果を校外外に発信する	・ 「Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」を定義する。
		・ 「Society5.0 を主体的に生きるための資質・能力」は、社会的な諸問題を解決する過程の中で効果的に育成されるかを検証する。
		・ STEAM 教育題材を開発する。

情報教育	1. 情報社会に参画する態度の育成	・情報モラルの必要性や情報に対する責任について考え、望ましい情報社会に参画しようとする態度を育成する。
	2. 情報活用実践力の育成	・技術・家庭科技術分野と各教科等が相互に関連を図り、情報を適切に収集、判断、整理、活用、発信するために必要な能力を指導する。
	3. 情報教育環境の整備	・ICT環境を整備し、iPadの活用体制を確立する。
保健安全	1. 自他の心身の健康に対し主体的に関わる生徒を育てる。	・よりよい安全点検をめざし、生徒・教員が連携して取り組む。
	2. 自他の安全に配慮できる生徒を育てる。	・生徒の自発的な清掃をめざして、指導の工夫・改善をする。
	3. よりよい環境を積極的に創る生徒を育てる。	・学習環境の整備について、自発的に取り組める生徒の育成を目指し、指導する。
第1学年	1. 自ら学びに向かう力を育む。	・授業を中心とした様々な学びの場面で、生徒自らが学びに向かい、考えることのできるような指導の工夫を行う。
	2. 自分と他者との違いに気付かせ、それぞれの長所を伸ばす姿勢を育む。	・学校生活全般を通して、一人ひとりの良さを見つけ、その良さを伸ばしていけるよう支援する。
	3. 自己を見つめ、心身ともに静養しようとする心を育む。	・日常生活の様々な場面で、生徒が自分自身を見つめ、鍛え、成長していけるよう支援する。
第2学年	1. 互いの個性を認め、思いやりを大切し、学校内外において、感謝や敬愛の気持ちを行動に移せるような学年集団を育成する。	・修学旅行等の対外的な活動や日常の学校生活を通して、社会性が身に付くように支援する。 ・日常生活全般の中に、道徳的視点を入れ、挨拶や個性・物を大切にする等の公共心が身に付くように支援する。
	2. 学校生活の中で、自主性を育て、授業を始めとした学校生活に前向きに取り組む学年集団を育成する。	・授業や家庭学習等の学習活動に前向きに取り組めるよう、よりよい学習規律や生活習慣が身に付くように支援する。 ・生徒理解に努め、生徒に寄り添った指導をする。
	3. 中堅学年としての役割を自覚させ、後輩のよき手本、先輩のよき支えとなるような学年集団を育成する。	・行事や委員会活動、部活動等の中で、2年生として自分達がとるべき行動を考えさせ、実行に移せるように支援する。
第3学年	1. 自分の考えに自信を持ち、行動できる生徒を育成する。	・学校行事や学校生活の様々な場面で生徒自身の考えを問うとともに、その考えの課題や課題を解決するための行動について支援を行う。
	2. 他者の気持ちや周囲の状況を押し量り、行動できる生徒を育成する。	・自分の発言や行動によって、他者がどんな気持ちになるのか、先に何が起こるのかを考えられる支援、指導を行う。
	3. 目標の実現に向けて粘り強く取り組む、たくましい生徒を育成する。	・学年、学級において、お互いに学び合う雰囲気を作るとともに、自分の進路目標に向かって粘り強く、最後まで努力できるように教師が支援する。